

合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

事例の概要

初めての経験、場所、人が苦手で泣き出したり、座り込んだり、固まってしまうことが多い。言葉による指導は入りにくいため、絵カードを用いたり、周りの様子を観察させたりすることで、不安を払拭させるようにしている。また、パターン化したり、タブレット端末による視覚的な教材を取り入れることで、学習に興味を持てるようになってきた。

1 対象児童の障害種

知的障害

2 障害の程度

該当(知的障害)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

小学校・特別支援学級

4 学年

小3

5 対象児童の実態

学習面では、体験不足・知識不足等のため、漢字の読み書きや簡単な文作りが大変苦手である。また、視覚からの情報を正確にとらえることにも課題がある。以上のことが、学習に対する興味や意欲を低下させることとなっている。

6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

母親より、時計を見て時間を気にかけて自分で行動したり、物事に見通しをもって取り組めるようになってほしいという要望があった。支援方法を決定するにあたり、普段利用しているディサービス担当の方との情報交換を行った。その結果、指導にあたっては、ビジョントレーニングも取り入れていくことにした。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

集団行動が苦手で、自分から離脱していく場合が多いため、同学年の児童と共に学び、交流を深めながらコミュニケーション能力や社会性を育てることを目指した。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

具体物を活用し、体験不足・知識不足を補いながらスモールステップでの学習指導を行った。さらに、タブレット端末を使用して板書を写す練習や、ビジョントレーニングによる視知覚の強化を行っている。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

体育ではドッジボールなどのチームで行う競技については、動きの速いボールについていくことが難しい。そのため、外野などコートの外で待機して、ボールを投げる練習をしている。また時には、動きが見やすい風船を用いて簡単なバレーボールも取り入れながら、友達と対等に関わる機会を設定している。

9 成果と課題

<成果>

具体物を利用したり絵カードを示したりしながら、その時々で達成感が味わえるようになってきたことで、出来ることが増え自信がついてきた。

<課題>

児童の実態に合った教材・教具、問題提示の仕方を工夫しながら、成功体験を積み上げていく必要がある。